

より高品質な総合金融サービスを追求する

対外経済貿易大学学生代表

見学日時：2018年6月4日（月）09:30-11:30

見学場所：三井住友銀行

見学概要

三井住友銀行(SMBC)は日本の三井財団と住友財団における中核企業であり、2001年に住友グループの住友銀行と三井グループのさくら銀行の合併により設立された。また2002年には三井住友フィナンシャルグループ(SMFG)が設立され、日本最大規模の金融グループの一つとなり、商業銀行、リース、証券、消費者金融等の金融サービスを提供している他、2010年にはニューヨーク証券取引所において上場を果たしている。



日本の銀行の中でも最大規模の国内及び海外支店ネットワークそして時代の変化に対応可能な強力な戦略調整能力を有する三井住友銀行は、その規模と各支店との協力によりグローバルな金融サービスを提供している。そして「お客さまに、より一層価値あるサービスを提供し、お客さまと共に発展する」、「事業の発展を通じて、株主価値の永続的な増大を図る」、「勤勉で意欲的な社員が、思う存分にその能力を発揮できる職場を作る」を経営理念とし、グローバルで、信用度の高い、競争力のある金融サービスグループとなっている。

6月4日午前9時30分、私たちは定刻通りに三井住友銀行の本店に到着し、ここでの約2時間の見学を開始した。その際の國賀顧問や藤盛部長のお話からは、三井住友銀行の専門性や総合性への追求といったものをはっきりと感じることができた。またある中国人スタッフからのお話の後、私たちは東京勤務の感想やキャリア構築に関する問題について質問をした。

その後、私たちは三井住友銀行本店一階のロビーを訪れた。そこでは先ずロビー内の植物に目を奪われ、さらに世界各地の情報を検索できるデジタル地球儀とPepperというロボットも私たちの興味を引いた。その紹介に耳を傾けた後、私たちは直にデジタル地球儀の優れた性能を体感し、さらにロボットとも交流を図った。



最後に、私たちは二階の金融／知のランドスケープを訪れた。そこでは複数のモニタにより銀行の発展過程などをユニークに紹介していた。

なぜですか？

問:三井住友銀行の前身は？

答:三井グループは約 350 年前に創設され、その当初から金融に関する事業を行っていた。1673 年から京都で製作した和服を東京(当時の江戸)で販売することで多くの収益を得て、それらが同グループの資金源となった。そして住友グループは約 400 年前に創設され、当初は銅鉱山の経営で収益を得て、その後両替、融資、送金等幅広い事業を行い、次第に日本屈指の事業グループとなっていった。

問:東亜銀行と三井住友銀行はどういった関係なのか？中国金融市場の開拓においてどういった役割を果たすのか？

答:東亜銀行における三井住友銀行の出資比率は高く、すでに東亜銀行(総資産は香港で 5 番目)の最大株主となっている。東亜銀行は中国本土において支店ネットワークを拡充しており、すでに 110 の支店を有している。そうした東亜銀行の実情を交え、三井住友銀行は外資系銀行において最大規模の支店組織を有している。三井住友銀行は東亜銀行との提携強化を通じて中国企業との取引を拡大するなど、中国市場における成長を目指している。

問:「住友グループ社長会」をなぜ「白水会」と呼ぶのか？

答:住友家初代の住友政友は今から約 400 年前に京都において「富士屋」の屋号で書物と薬の店を営み、政友の義兄の蘇我理右衛門は同じく京都において銅吹きと銅細工の店を開業、「泉屋」と称した。その後、理右衛門の子が住友政友の娘婿となり、住友友以と改名、さらに「富士屋」と「泉屋」を合併し、今日の住友グループの基礎を構築した。「白水会」の白水は「泉」の字を上下に分けたことが由来である。

問:三井住友銀行の中国での発展の状況は？

答:三井住友銀行(中国)有限公司(SMBCCN)は、三井住友銀行の完全子会社で 2009 年に設立された。主に中国本土地区において様々な銀行業務を行っている。

問:三井住友銀行における外国籍従業員の比率は？

答:0.5%。

感想

三井住友銀行の見学を終え、最も印象深かったのは同銀行が二つの面で示した総合性であった。その一つは環境、科学技術と金融の融合、もう一つは人材育成、人材の総合的能力への重視というものであった。私たちのこれまでの観念における金融というのは、高くそびえる摩天楼、慌ただしい証券取引市場に関連するものであったが、三井住友銀行が示したのはそれとは全く異なるものであった。

ロビー内の庭園のような植生、タッチパネル式のデジタル地球儀が示す世界各地の様々なデータ、ロボットによる会社紹介などは、いずれも私たち一人ひとりに日本企業の「総合力」を感じさせるものであった。私はこうした点こそ日本企業が 100 年以上の安定経営を実現できる理由であり、また従業員のひたむきな業務態度が示す専門性と企業の技術イノベーションや環境対策への努力が示す総合性は三井住友銀行が今後もさらに持続的な発展をする上での原動力となるものであると感じた。



また三井住友銀行の人材育成は、人材の働きを最大化するもので、各従業員の特性を踏まえ能力を強化し従業員の国際的視野を構築することで従業員の総合能力を高めている。こうすることで、経営において問題が発生した場合に、従業員一人ひとりがその能力を発揮し、単独で対応をすることができる。

アジアの金融の中心である日本は四度の金融危機を経験した後も依然として大きく成長を続けている。私はこの点については日本企業の総合能力への追求と密接な関わりがあると思う。そして現在、中国と日本は金融分野での協力を進めており、通貨スワップ等の金融分野での革新もまた両国の利益的繋がりをより高めている。中国の銀行もまた三井住友銀行の優れた点に学び、金融リスクへの適応能力を高めることで、中国が真の金融強国となることを願っている。